



日本モビリティ・マネジメント会議
ニュースレター

Vol.19 ● 2011.04.30

【発行】 JCOMM実行委員会
ニュースレター編集部
【お問合せ】 筑波大学 谷口綾研
大阪大学 松村研
mail: info@jcomm.or.jp

MMIに関連する会告掲載希望やご意見等、
随時受け付けております。

東日本大震災に寄せて

MMによる「コミュニティ」の形成支援を

JCOMM実行委員会幹事長

藤井 聡

東日本太平洋岸地域を中心に、激甚な被害をもたらした東日本大震災から一月以上も経過いたしました。第六回JCOMMの予定地でありました仙台市さんをはじめと致しました被災地の皆様方に改めてお見舞い申し上げますと共に、その復旧、復興に向けて、様々な形で日夜ご尽力されておられます関係各位の方々に、改めて感謝申し上げます。

この度の震災はそのあまりにも巨大な被害のために、それぞれの立場で、何ができるのかについて、途方に暮れる様な思いでおられる方々も少なくないかも知れません。しかし、この震災は東日本の被災地を破壊したのみならず、我が国日本全体に巨大な被害をもたらしたものです。したがってこの震災を乗り越える

でも実際に、この「コミュニティ」の存在こそが、「防災」「減災」のために極めて重要な意味を持つものであった事が、幾例も伝えられてきています。

例えば、宮古市の姉吉地区では、昭和三陸津波の直後に立てられた「此処より下に家を建てるな」と書かれた、高台にある石碑の言いつけを78年間も守り続け、人々の家も生命も皆、失われずに済んだと伝えられています。もしこの地区に一切のコミュニティが無ければ、この石碑の言いつけを何十年も前に守らなくなってしまう、結果、今回、大きな被害を受けたやも知れぬことは、想像に難くありません。

あるいは、石巻市の水浜集落は、約130戸の集落がほぼ壊滅しましたが、住民は380人中、死者1人、行方不明者8人と、全体の2%程度であつたと伝えられています。その背景には、多くの人が「この家に誰がいるか、頭に入っている」程に、「コミュニティ」が濃厚に形成されていたことが決定的な要因であつたといえます。集落には1人暮らしのお年寄りも多かつた

このことですが、若い人たちがそうしたお年寄り達を連れだし、高台の避難所に連れて行ったとのこと。この地区でもまた、もし「コミュニティ」無かりせば、その被害が拡大していたことであろうことは想像に難くありません。

この様に震災を含めた種々の天災からも私たちの命を守る重要な役割を

担い得る「コミュニティ」であります。

それは残念ながら「モータリゼーション」の進展に伴って、全国各地でどんどん希薄化してきています。もちろん、モータリゼーションだけがコミュニティの水準を決めている訳ではないですし、上に紹介した2つの地区のモビリティの様子がどうであつたのかは現時点でもまだ定かではありませんが、しかしそれでもなお、「過剰なモータリゼーション」の進展は、コミュニティの希薄化をもたらす決定的要因の一つであることは、疑う余地はほとんど無きところでありましょう。

そうである以上、MMの持続的かつ大規模な展開は、それぞれの地域のコミュニティの形成を促し、様々な自然災害に対する「強靱性」の向上に資するものでもあるのです。

そしてさらには、「コミュニティ」は津波からの被害を「減らす」だけではありません。

例えば、先に紹介した石巻市の水浜集落から避難所に避難した方が、次のように語っている様子が、報道されています(1)。「われわれに悲壮感はない。支え合ったみんなとなら、またやつていける」つまり、コミュニティがそこであれば、震災の直接被害を小さくできるだけでなく、そこから「回復」も早期に期待できることとなるのです。

さらには、「コミュニティ」さえあれば、平時においても、孤独死も少なく

るでしょうし、治安も維持されやすくなり。自然災害以外の、例えば、リーマンショックの様な経済ショックが訪れても、色々な形のワークシェアリングによって、皆が支え合うことも可能となるでしょう。そして何より、コミュニティがあれば、「利潤追求を主たる目的とした大資本の商業主義」や「シャッター街化」という「何年

も何十年もの年月をかけてとじつくりと押し寄せてくる商業的・経済的な津波」から、それぞれの街や村を守り、歩いて暮らせるような、景観的にも良質な街や地域を守り続けることも可能となるでしょう。

つまり、「コミュニティ」があれば、地域を襲う自然災害の危機や経済的危機、商業的危機といった様々な「危機」から、人々の仕事や暮らし、伝統を守り続けることができるのです。

そして、そのコミュニティの中心にあつて、この「交流」を促す事を目的としているのがMMの取り組みなので

考えてみれば当たり前ですが、もし人々が一切のモビリティを地域の人々と共有せず、外出先でも一切の交流をしなければ、人々は、コミュニティを築き上げるなどそもそも不可能でしょう。そういう社会で人々は、その「地域」の中で「助け合う」ことが無くなり、色々な危機が訪れた

(裏面に続く)